



去る4月3日、西新宿8丁目の「割烹栗吉」にて、14期の同期会を持ちました。

出席者は、残念ながら野郎ばかりで、今回の発起人の住吉正勝君以下、会場設営をしてくれた竹田征郎君、遠藤宏佳君、滝沢正夫君、中川昭治君、西本至君、それに僕の6人でした。一応 14期の“あずま会”メンバー全員(僕を含め38名)に声は掛けたのですが、急なことであつて、集まったのはこんなものでした。寂しいことですが、それほどのニーズがなかったのかもしれませんが。最近、僕もちょっとは成長したせいか、自分の独りよがりのお節介を、少々反省することも間々あります。

僕は八尾高時代、楽しい思い出ばかりでしたが、考えてみれば同期の諸君が全部、僕と同様であつたとは必ずしも言えませんね。「当時を思い出すのも嫌だ」と思う方もおられるかも知れません。もし、そのような方がいらつしゃるとすれば、関東在住を理由に勝手に“あずま会”メンバーに加えて、なにかと余計なお世話をし、ご迷惑を掛けていたのかもしれませんが。この場を借りてお詫び申し上げます。それにしても、やはり高校の同期生って好いですね。(大学のそれとはちよつと違います)

故郷を離れ長年関東で暮らしている同期の諸兄諸姉、遅くなっておられるようです。それぞれ、関東での人脈も確立されていることは当然と思います。でも、残り少なくなった人生ですから、たまには同窓生と会つてちよつと昔を思い出して見てもいいんじゃないか、と勝手な思考をしてしまいます。

この会合でも別にたいした会話も交わしていませんが、同期諸兄の顔を眺めながら、黙してチビリチビリと飲む酒には、格別の旨味がありましたよ。「えっ！よくしゃべっていた？」ひよつとすると、そうだったかもしれませんね。お粗末の一席。

さて、最近では妻と車で旅を楽しんでいます。草津に行く道すがら、近くに在住の同期生AFさんの住所をカーナビに入力すると、玄関前まで誘導してくれ、突然の訪問となりました。彼女は、昨年ご主人を亡くされ、このところEメールも不通になっていましたので、少し心配していました。が、思いのほか大丈夫のようでお元気でした。考えてみれば、Aさんには卒業以来ですから半世紀まではいかないまでも、「お久しぶり」なんてものではありません。お互い道ですれ違つても判る訳がない変わりようですが、一緒にいた女房がまさか！と驚く“46年振り”とは思えない賑やかな再会でした。(うちのカミさんの話では、妻は夫に先立たれても3年経たないうちに以前にも増して元気になるものだとのこと)

そういえば、1月に訪ねた伊東のMIさんもそうでした。3年前にご主人に先立たれて、さぞやお寂しいことと慰めるつもりで訪ねましたが、“とんだわけ”で、地元を中心に八面六臂の大活躍で頑張っておられました。僕の方が、正月早々彼女に“元気”を貰ってきました。

それにしても、僕も“ママ”というか“物好き”ですね。“あずま会世話人”の立場上、手紙・電話・Eメールなどでコンタクトしていたせいでしょうか。

卒業以来会つてない“あずま会”メンバーもまだ数人います。そのうち、近くを通りがかることもあると思いますので、